

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽光小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 51人

② 算数 51人

5 留意事項

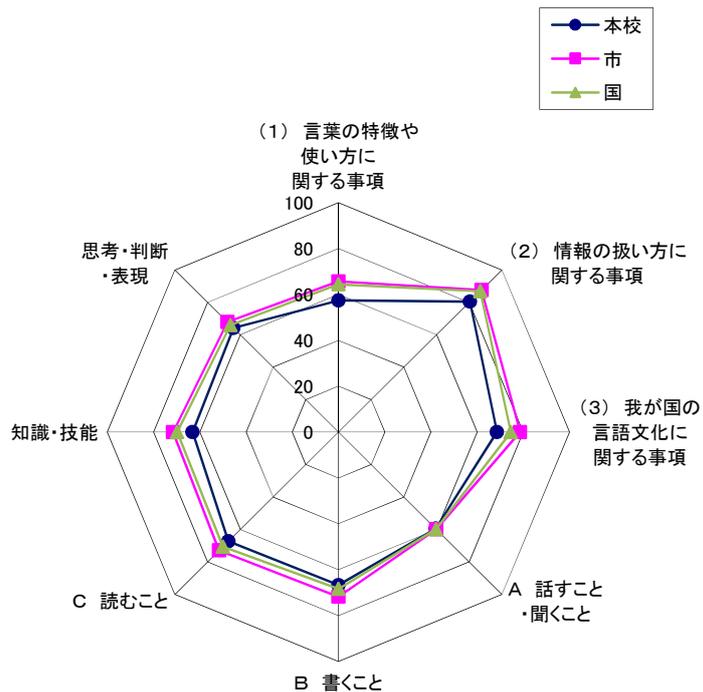
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽光小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	57.4	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	80.4	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	68.6	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	59.5	59.9	59.8
	B 書くこと	66.7	71.8	68.4
	C 読むこと	67.3	72.9	70.7
観点	知識・技能	63.1	71.5	69.8
	思考・判断・表現	64.2	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、57.4%と市や国の平均を下回っている。</p> <p>○話し言葉と書き言葉の違いに気付く問題は正答率が80.4%であり、市や国の平均を上回っている。</p> <p>●漢字の書き取りの正答率が低く、特に熟語では市や国の正答率を大きく下回っている。</p>	<p>・話し合い活動の場を多く設定し、自分の考えをまとめながら説明したり、事実と感想、意見とを区別して結論付けを明確にしたりすることについて指導してきたことが有効であった。</p> <p>・漢字の学習では、習得した語句を文や文章の中で進んで使えるよう、国語の授業以外でも確認しながら指導していく。</p>
(2) 情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は80.4%と市や国の平均を下回っている。</p> <p>●情報の整理の仕方や表し方を学習するときには、表し方とその特徴を確認して、目的に合った表し方に気付けるようにしていく。</p>	<p>・様々な学習において、文だけでまとめるだけでなく、図を使って視覚的に分かりやすくまとめたり、関連することを矢印や色分けをして整理したりするなどして、個々の情報をつなげることができるようになる。</p>
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は68.6%と、市や国の平均を大きく下回っている。</p> <p>●無回答率が11.8%と市や国の平均よりも高いことや、調査の最終問題であったことから、問題を解く時間が確保できなかったことが考えられる。</p>	<p>・これまでと同様、書写での既習事項を確認した上で書く機会を設けていく。また、時間内に考えをまとめることができるよう、意見文を書く練習を繰り返していく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市や国の平均とほぼ同じである。</p> <p>○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係づけたりして、伝え合う内容を検討する問題は、全国や市の平均より約10ポイント上回っている。</p> <p>●同じ伝え合う内容を検討する問題だが、図を用いてまとめてあるものの正答率は低い。</p>	<p>・話し合い活動では、全員に発言する機会を設けるなど、話し合いに参加し、意見を述べる機会を多く作る。</p> <p>・人前で話すことが苦手な児童や集中して聞くことが難しい児童でも話し合い活動に積極的に取り組めるよう、小グループやペアでの学び合い活動を推進する。</p>

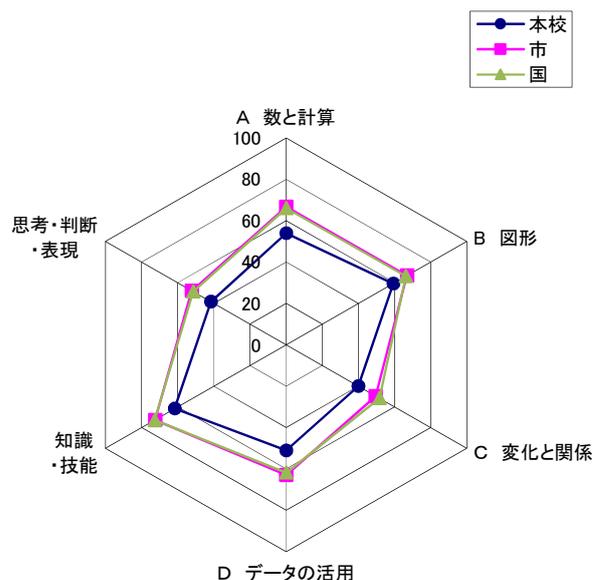
<p>B 書くこと</p>	<p>平均正答率は、市や国の平均より下回っている。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係づけたりして、伝え合う内容を明確にする問題は、全国や市の平均よりやや上回っている。 ●目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書く問題の正答率は、全国や市の平均より下回っている。</p>	<p>・構成を工夫することの良さや大切さを実感できるように、今まで読んできた物語を読み返し、どのような構成になっているかを考えたり、構成の特徴や効果を整理したりする活動を取り入れるなど、書くことと読むこととの学習との関連を図っていく。 ・授業以外でも、自分の意見や考えを書き表す機会をもたせるようにする。</p>
<p>C 読むこと</p>	<p>平均正答率は、市や国の平均より下回っている。 ○「話合いの様子」を読み、人物像を具体的に想像する問題の正答率は、全国や市の平均より上回っている。 ●登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉える問題の正答率は、全国や市の平均より市や国より下回っている。</p>	<p>・朝の読書や教科書の音読などで「読む」経験の日常化を図るとともに、音読の宿題では、家庭との連携を図りながら、まとまった文章を読み取ることへの抵抗感をなくしていきたい。 ・国語の時間だけでなく、社会科や総合的な学習の時間など、他教科との関連を図り、必要な情報を読み取る力を育てたい。</p>

宇都宮市立陽光小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	53.9	66.7	66.0
	B 図形	59.3	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	39.9	49.6	51.7
	D データの活用	51.0	62.9	61.8
観点	知識・技能	61.7	72.6	72.8
	思考・判断・表現	41.7	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、53.9%と市や国の平均を下回っている。</p> <p>○数量の関係を、□を用いた式に表すことは85%以上の児童ができています。</p> <p>●除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係をみることに課題が見られる。</p>	<p>・計算に関しては、計算の仕方を確認してから反復練習をさせる。</p> <p>・除数が1より小さくなると、その商が被除数より大きくなることを数直線に記述し、視覚化するようにする。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、59.3%と市や国の平均を下回っている。</p> <p>○五角柱の面の数を、底面と側面の数から説明する問題の正答率は、市や国を上回っている。</p> <p>●球がぴったり入る箱の体積を求める式を立てる問題の正答率は、市や国を大幅に下回っている。</p>	<p>・立方体の一辺の長さは、球の直径の部分であることを確認し復習していく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、39.9%と市や国の平均を大きく下回っている。</p> <p>●速さを求め、比べたり、言葉や数を使って説明する問題に課題が見られる。</p> <p>●条件をもとに道のりと時間の関係を考える問題に課題が見られる。</p>	<p>・全体で問題を読み、必要な数値を選んだり、速さの求め方を確認したりする場を作っていく。</p> <p>・記述式の難しい内容であるので、習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図っていく。</p> <p>・授業や家庭学習等で、速さの学習を振り返り、道のり、時間、速度の関係や立式のやり方を復習する場を作っていく。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、51.0%と市や国の平均を下回っている。</p> <p>○円グラフから、問われている項目の割合(%)を読み取ることはできる。</p> <p>●複数のデータを比較し、必要なデータ取り出して記述する問題に困難さが見られる。</p>	<p>・縦横の軸に何が書かれているかを確認し、データを正しく読み取れるようにする。</p> <p>・示されたデータの中から、必要な数値を取り出して説明できるようにしたい。そのために自分の考えを友達に伝え合いながら、子ども達同士が学び合える場を作っていく。</p>

宇都宮市立陽光小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の設問では、85.2%と高い肯定的割合を示している。また、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の設問では、約7割の児童が守っていると回答している。スマホ・ケータイ徹底習慣等を通して、引き続き使い過ぎによる生活の乱れを起こさぬよう啓発していきたい。

○いじめに関しては、どんな理由があってもいけないことだと96.3%の児童がと高い肯定的回答を示している。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問には、98.1%の児童が肯定的に回答している。これからも、道徳や学級活動の時間などを活用しながら、いじめを許さないという態度を育て、友達同士助け合えるような学級づくりに努めていきたい。

○話し合い活動では、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」という設問で、肯定割合が88.9%と市や国の肯定割合より高く、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の設問でも90.7%の高い肯定割合であった。今後も、様々な場面で自分の考えを発表する機会をもち、自信をもって自分の考えを伝えられるようにしていきたい。

○国語や算数の学習については、将来、社会に出た時に役に立つと考えている児童が95%以上で市や国の肯定割合より高い。学習に対する意識を生かして主体的に学べるような授業展開を工夫していきたい。

●「1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という設問に対して、1時間以上2時間未満が最も多い。また、土曜日や日曜日など学校が休みの日の勉強時間は、1時間以上2時間未満の児童が最も多いが、次いで1時間未満の児童が多い。今後も家庭との連携を図りながら、家庭学習を計画的に、一定時間取り組めるように継続して指導していきたい。

●普段（月曜日から金曜日）、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を勉強のために1日当たり1時間以上使っている児童は、13.1%と市や国と比べて少ない。インターネットの使用については、学校での情報モラル教育を充実させつつも、今後は学校と家庭で連携をとってよりよい学習方法につなげていきたい。

●読書については、家庭に26冊～100冊本があるとの回答が最も多かった。しかし、全体的に本に親しんでいる様子が見られないので朝の読書の時間や学校図書館の利用の充実を図り、児童が読書に親しめるように努めていきたい。また、新聞を読んでいる児童は87%と多い。国語や社会科等で新聞を活用する機会を増やしていきたい。

●国語の文章を書く問題では、解答しなかったり、途中であきらめたりしたという児童が約3割もいたので、粘り強く最後まで解答を書くことを努力させたい。

宇都宮市立陽光小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本の定着と読解力の育成	・問題文の意図を捉える力を全教科・領域で育てる。その手立てとして、問題文にアンダーラインを引かせたり、ペアで問い直しを行ったりする機会を設定する。	・「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の質問項目では、各教科共に肯定割合が95%以上であり、学習の必要性は、自分の将来に関連付けて概ね理解している。 ・国語の「目的や意図に応じて、集めた材料を分析したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうか」の設問では、正答率は市や全国の平均と比べて10ポイント以上上回っている。
・家庭学習の指導の充実	・児童に宿題だけでなく、家庭学習のヒント集を利用した自主学習を勧める。教員だけでなく、保護者にもチェックをお願いする。	・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」については、本校で勧めている1時間以上の学習をしている割合が、市や全国の平均と比べて上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎基本の定着が不十分な部分が見られた。	・基礎力を身に付ける朝の学習の時間の確保 ・ICTの活用 ・活用問題への慣れ	・朝の学習15分間を集中して取り組ませる。 ・AIDリル等を計画的に活用し、個に応じた目標達成を図る。 ・活用問題を準備し、応用問題にも慣れるようにする。
・言語活動（書く活動）が苦手な児童が多い。	・言語活動の充実（書く活動の工夫） ・授業中にめあてを明確に示し、振り返りを確実に行う。	・文脈を捉えた感想交換と意見文に触れるようにさせる。 ・目的や意図に応じ、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめるような場面をつくり、書くことに慣れるようにする。 ・本時のめあてに対するまとめを、自分の言葉で書く時間を設けるようにする。